

各務原市特別支援学校整備に関する市民説明会 開催記録

1. 説明会の議事（基本フロー）

- (1) 開会
- (2) 挨拶（各務原市教育施設整備推進室 牧田室長）
- (3) 資料説明
- (4) 質疑応答
- (5) 閉会

2. 開催経過

日 時	場 所	出席者数	備 考
1月23日（土） 12:30～	産業文化センター 1階 あすかホール	28名 	
1月26日（火） 10:30～	産業文化センター 1階 あすかホール	25名 	

3. 質疑応答・要旨

1月23日（土）

資料説明途中における質疑	
A	・説明はそこまでにして聞きたいことがある。
事務局	・質疑の時間を最後に取りなのでお待ちいただきたい。
A	・根本的なことを聞きたい。どうしてあんな羽場の窪地のところにつくるのか。危険がある。
事務局	・最後にまた質問を受けさせていただく。

質疑応答	
A	・36年間特別支援学校を回ってきて、現在は羽場に住んでいる。窪地で一番低いと

	<p>ころにつくるということを知りてびっくりした。何故、あそこにつくるのか。近年はゲリラ豪雨もあり、緊急時にどのように避難誘導するのか。子どもの命を第一に考えてもらいたい。小中学部をつくるということは大事なことだが、安全安心な場所につくってもらいたい。高等部は、35年あそこにある。20年間はプレハブだったが、15年前にやっと立派なものができる。あんなに教育環境の良い場所はない。高等部はそのまま残すべきである。子どもたちに社会経験させる絶好の場所である。他の事例では、山の中や廃校跡という場合が多い。羽場の駅から近いかもしれないが、アップダウンがすごい土地であり、あのような地形が悪い場所ではいけない。電車も30分に1本しか停車しない。踏切も車1台が通れる程度しかない。国道を渡った後も歩道が無い。土地を安く取得できるからという理由ではいけない。広報で見てから怒りで燃えている。15年しか経っていない校舎の後に何か持ってくるために移転しようとしているのか。今の学校にもっと重度の子を受け入れれば良いし、知的障がいだけに限定しなくてもいい。県立の特別支援学校でも障がい種別で限定しているところはない。特別支援学校をつくってもらえることは非常に良いが、立地に問題がある。候補地選定に係る点数表をみても、後から付け足しただけのものである。また、田んぼをやっている方が稲わらや草を燃やして煙がすごく立ち込めており、びっくりするような場所である。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の市民説明会は説明の内容についてご参加いただいている皆様にご質問をしていただきたいという考えである。個人的な感情や根拠のない主張はおやめいただきたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会に合わせた質問をしている。根拠を持って質問をしている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会に支障をきたすような方には退場をお願いする。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・何故、退場させる権限があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・我々の説明不足もあり、一部誤解があるようなので、補足的に説明させていただく。 <p>策定委員会において、現地の視察をした上で、文部科学省が示す客観的な評価に基づき、エリアを絞ってきた。また、大学教授等の策定委員会委員から意見をいただいた上でエリアを決定した。エリアの選定の際にハザードマップの確認をしたところ、エリアの一部が土砂災害警戒区域のイエローゾーンに含まれることが分かった。また、巨大地震が起きて上部のため池が破損した際に水が押し寄せてくる可能性を把握し、県にも確認した結果、現状の道路面から水の高さが50cm以下ということを確認した。土砂の高さも既存の道路から数十cm程度であることを確認した。特別支援学校の建設において50cmから1m高い位置で造成されている実績がある。これを踏まえ、このエリア内に設ける際に現状の道路よりも50cm以上造成することは通常であるので、災害時に大きな支障があるとは言えない。</p>

	<p>いと結論付けられた。その上で、このエリアに決まっている。教育委員会としても子どもの安全は第一に考えている。</p> <p>現在の特別支援学校は、高等部、知的障がいの方を受け入れている。それ以外の方を市内で受け入れるためには小中高揃った特別支援学校の整備が必要不可欠である。繋がりを持って一貫性を持たせていくためには、今のあの場所では物理的に不可能であることから、別の場所で建設することになった。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> 各務原らしい特色ある特別支援教育とあるが、「らしさ」というのはどういうことか。一貫して書かれているのは、地域に開かれたという「地域」がキーワードになっていると思うが、簡単に教えていただけるとありがたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各務原らしい特色というのは具体的に現時点では決まっていない。この整備事業は、ハード事業、ハコモノ事業と考えられがちだが、ソフト事業でもあると考えている。これから開校までの間にソフト面について、専門家、地域、市民の皆様にご意見を伺いながらどのような学校にしていくか詰めていく。条例に定められた委員会の他に特別支援教育に携わる先生方と座談会を開いている。その中で、作業学習の一環として農作業や企業とのタイアップをしてはどうかという意見をいただいている。それらが出来上がった際に、県立ではなく市立のため、型にとらわれない市オリジナルのこともやっていけるということで各務原らしいと表現している。
C	<ul style="list-style-type: none"> 今日は特別支援学級の息子を連れてきているが、娘も発達障がい、岐阜農林に行っている。岐阜農林では、岐阜特支と連携してセラピーホースなど動物と障がいのある子を繋げる取組みをしている。土や動物に触れることは良いことだと思うので、近隣の農地をお借りするなど農業や畜産に力を入れていただきたい。 小学校、中学校の登下校の時間が被ると思うが、登下校の視察はされているか。中学生と被ると小学生が歩道から飛び出してきて危ない。車でも登下校の時間に通るのは避けたいと思っている。その時間を見たことが無いのであれば確認していただき、東側から羽場駅の方に向かう通学路も検討していただければと思う。 中学部と小学部の間に遊具を置かれるということで、中学部の子に刺激にならないかが気になる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 農業、畜産関係については、座談会の中で畜産関係も検討すべきと意見をいただいている。敷地内に農園を設けているものの、外部の方と何かをつくるということも検討すべきと意見をいただいている。貴重なご意見として、令和3年以降のソフト整備の中で検討していきたい。 通学路については、現地を改めて確認するが、先進地視察の中でも下校時には放課後等デイサービスの車で大変混雑すると聞いている。鶯沼中学校の下校と重なると危険とのことで、特別支援学校の児童生徒は車での登下校が多くなると思うが、参考にさせていただく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭の遊具については、確かに魅力的な遊具があると刺激になることがあるかもしれない。令和3年度中には設計に取り掛かっていくことになり、今の案は一例であるため、今後しっかりと検討していく。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は肢体不自由の児童生徒を受け入れられていくとのことであるが、様々な医療的ケアが必要となる。県立では、学校に看護師が配置されているが、今回の説明の中には無かったため、今後、配置されていくかお聞きしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的なケアについては看護師の方が必要なため、県の教育委員会とも相談しているが、市として必要な体制を確保していく。今後の運営に関する専門的な職員を令和3年度から配置し、令和7年度の開校に向けてしっかりと詰めていく。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・各務原らしい特色ある特別支援教育ということは抽象的であるが、特別支援学校だけでなく特別支援教育ということだと、特別支援学級も含めた全体の将来像を30年間見ている。特別支援教育についてしっかりと語った上で学校の役割、市の方針を示し、学校が必要だということが特別支援教育に疎い市民にも分かるような情報発信をお願いしたい。 ・新年度は基本設計に入っていくような事業計画になっているが、基本設計を市の中で決め、行政の中だけで進めていくと市民の意見が十分に反映されないのではないかという不安を持たれる方もいるので、オープンな中で進めていただきたい。 ・個人的な考えになるが、各務原市は小中学校を都市計画施設に位置付けた。そうであるならば、新しくつくる特別支援学校も都市計画施設に位置付けて、都市計画税を有効に活用して整備をしていくべきであると思うが、その位置付けが基本計画に書かれていないのが残念である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方針の部分で不足があるということで申し訳ないが、内部で検討してまいりたい。 ・特色については、ソフト面について皆様からご意見をいただきながら詰めていきたい。 ・都市計画決定については、お見込みの通り、進めるべきであるという認識であるが、別の分野として回答したい。都市計画決定を前提とした下協議は進めている。本市として学校は守り続けていくべきだという位置付けのため、そのようになっている。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が200名程度とのことだが、教員数は何名程度か。 ・小学校・中学校は市の教育委員会、高校は県の教育委員会になると思うが、例えば岐阜市立の岐阜商業高校の教員は県からの出向扱いになっているのか、その辺りがよく分からないので、教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ体制について、特別支援学校においては児童生徒2人に対して教職員が1人程度必要とされており、児童生徒数が最大で250人となると120人以上の大

	<p>人が子どもたちを育てていくことになる。他のスタッフも加えるとそれ以上になる。駐車場等の問題もあると思うが、令和3年度以降、しっかりと詰めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は県が整備するのが通例であり、教員についても県から派遣していただくことになると思うが、小中籍の先生方とも協力していく必要がある。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・私は各務原の特別支援の充実を求める会の代表もしていて、色々な話を聞くが、未だに特別支援学級に普通学級を持たない先生がきて、障がい理解がない。生徒指導をやってきたからという自負で情緒学級にみえる先生がいて、情緒なので知的には問題がないお子さんにはなるが、障がい理解のある先生を特別支援学級にも充実させてほしい。特別支援学校ではそういったお子さんの指導方法について研修をしていっていただきたい。 ・病弱・肢体不自由のお子さんが、他のお子さんと関わりたくてもケアがあるので離されてしまったり、図書館に行きたくても図書館が離れていたりエレベーターに乗らないと行けなかったりと簡単に行けないので、休み時間に一人でぼつんとしていることにより苦痛を感じているということを保護者の方から聞いている。障がいの種別に対するケアだけでなく、心に対するケアもしっかりしていただきたいと思う。 ・加茂特支が開校2年でパンクして、10年がかりで改修した。図書館以外の特別教室をすべて普通教室にリフォームしている。図書館が残ったのも開校当初は蔵書が0で寄付を募ったため、邪険にはできないという理由ではないかと言われている。パンクを2年目ですということは、計画もしているのに何故そうなるのかという部分と、もしパンクした場合にどのように特別教室を確保するつもりなのかお聞かせ願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能を併せ持った特別支援学校とし、教員の質を高めることに努めていきたい。 ・マスコミ報道等を見ていると、近年整備された学校が教室不足に陥っているという報道も見かけるが、フレキシブルな設計を目指していく。特別教室が普通教室に変えられるような可変性のある設計が求められるところであるが、特別支援学校判定の児童生徒は現在約200名おり、今後は微増していくという推計のもと1割程度の余裕を見て250名規模で想定している。もしそれ以上に増えた場合でも拡張できる敷地選定としている。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどは興奮して皆様にご迷惑をお掛けして申し訳なかった。私は各務原養護学校に5年間通っていて愛着があるので、高等部が羽場に移った後にどのように活用されるかが一番の心配事である。そこを教えてください。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・私も先ほどは感情的になり申し訳なかった。現在の各務原特別支援学校の取り扱いについては、切実な思いで意見をいただいている。子どもたちのことを考えた

	<p>ときに、ひばりに残したままではいけないので、羽場に羽ばたいてほしいと考えている。これは組織でなく個人的な意見だが、残った施設については、何らかの形で子どもたちに使ってもらえる施設として、教育委員会、市執行部に働きかけていきたい。</p>
--	---

1月26日（火）

質疑応答	
G	<ul style="list-style-type: none"> 候補地が農用地であるが取得の用途は立っているのか。既に取得されているのか。 立派なものができるも人が揃わないといけないので、先生の確保はどうなっているか。 今ある特別支援学校はどうなるのか。できたらすぐに閉めてしまうのか。それとも在校生が卒業してから閉めるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では確保できていないが、地権者には説明し、契約はできていないものの、学校ができるのであれば協力するという同意は取れている。農地であり、許可を得て所有権移転の手続きに移るまで1年ほど掛かるが、協力が得られる見込みのため、用途は明るいと考えている。 人材確保については、色々な方からご心配をいただいている。全国的に教員不足ということもあるが、市としては、人がいないから受け入れられないということが無いように、令和7年度の開校までに岐阜県にお願いしていくと共に、市でも人材育成に計画的に取り組み、来年度から教育委員会で体制をつくって進めていく。 現在の特別支援学校の校舎については、策定委員会の中でも結論は出ていないが、平成18年にできた比較的新しい施設であり、木造平屋でデザインにも優れた施設なので、教育委員会としては子どもたちのために使っていきたいと考えており、来年度以降、しっかりと検討していく。通われている生徒については、開校に合わせてお引越ししていただくことを考えている。
H	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校ができるとして、高等部だと卒業後が心配である。市として事業所と連携していくか。 小中学校の特別支援学級の位置付けはどうなるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 策定委員会に加え、支援教育に精通した方による座談会を行っている。その中で、市内に大手の企業があるので、企業と連携してカリキュラムをつくっていったらどうかという意見がある。しっかりと企業と連携して進めていきたいと考えている。 現在の特別支援学級はどうなるかという点については、特別支援学級には比較的軽度の方が通われているという認識のため、特別支援学校ができても無くなると

	<p>いうことは考えていない。</p>
I	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に通う生徒は市内在住か、市外からも受け入れるか。 ・スクールバスと書いてあるが、高等部で自立通学する際に羽場駅から危険がある気がするが、時刻に合わせて駅からスクールバスを運行するという事は考えているか。 ・最大在籍数が想定されているが、中学部と高等部で倍ぐらい数字が違う根拠はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・250名程度の学校を想定しているが、市立であり市内の生徒が最優先であることは間違いない。決定ではないが、定員に空きがあり近隣の市町から相談があった場合には、個別に応じることになる。ただし、それによって、市内のお子さんが受け入れられないということはないようにしていく。 ・自力通学が可能な生徒は公共交通機関を使って通っていただく。実際に歩いてみると心配なところもある。大型のスクールバスは4~5台を想定しているが、それ以外にワンボックスのスクールワゴンを回してはどうかという意見もある。座談会でも検討していきたい。 ・児童生徒数のグラフで、中学生が少なく、高校生が多くなっているが、特別支援学校に通う通学判定があり、判定の基準が異なる。中学校は義務教育で特別支援学級があるが、高校には特別支援学級はないため、実績として高校生が多くなる。岐阜県立の特別支援学校でも同じような傾向がある。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・通学の危険性について、スクールバスとは逆の発想になるが、江南のくるみの里という作業所があり、そこは日常生活の中で徒歩や自転車で通われている。地域の中で日常生活を歩んでいる。保護者の方も最終的には地域社会の中で生活していけるということが願いだと思う。安全性を確保しないといけないの分かるが、学校の中で完結してしまうのではなく、まち全体で障がいのある方が生きていけることが必要なのではないか。駅から学校までをバリアフリー化するなど、まちづくり全体で考えられるとよい。学校を終えたあとでも地域で生きていけるという方向がよい。まち全体がバリアフリーになっていく試金石になるとよい。今、特別支援学級が崩壊しているくらいで、先生方も手一杯の状態である。安易に特別支援学校に流れるということが無いようにしてほしい。市全体でインクルーシブを進めていくということなので、特別支援学校ができて生徒本人が地域の学校に通いたいという意思があるのであれば、そうできるようにしてほしい。教員の確保としては、特別支援学校だけでなく、市全体として必要である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全安心を第一に考えてしまうが、社会に出た後に生きていけないということは困るという意見もある。バランスが大切であり、総合的に考えていく。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が理解し、バリアフリーを進める、手を差し伸べるという市民の意識改革を進める必要がある。意識を市が醸成していかないといけないため、各務原はイン

	クルーシブを目指して、意識改革を並行して進めてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者への説明会や近隣住民への説明の中で、できることがあれば手伝いたいというお話をいただいている。その中で登下校の見守りということもある。地域社会の方から手を差し伸べていただけることで、共に生きる共生ということに繋がる。 ・教育現場の方でも特別支援教育については、教員の交流を積極的に行い、新しい特別支援学校のセンター的機能を充実させ、卒業生や地域住民の方も気軽に集っていただけるようにしっかり検討していきたい。
K	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの受給者証を取ったときには何も知らなくて、高校の特別支援学校があることも後から知った。放課後等デイサービスがあるとか、福祉の里があるとか、新しい支援学校ができるという情報が受給者証をもらうときに分かると良い。 ・小学校の人数の割に農業の場所が狭いと感じた。周りに農地がたくさんあるように感じたので、それを借り、そこに行って収穫を手伝うなど、人手が足りないときに協力ができることで、地域社会で生きることに繋がると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信、アナウンスが不十分であったということで、今の事業については発信しているが、それ以外についても教育委員会だけでなく関連する職員全体で行っていけるよう働きかけていきたい。 ・周囲は田園地帯であり、農地を借りるという話は策定委員からも出ている。敷地の中の農地だけで完結してしまうと閉鎖的になってしまうので、農地を借りて所有者の方と一緒に農作業をするのもソフト面で重要なため、しっかりと取り入れていきたい。
K	<ul style="list-style-type: none"> ・今の日本は農薬がすごく多い。自閉症の原因は農薬とは断言しないが、原因の一つではあると言われている。無農薬や有機で不格好でも良いと思う。土に触れることも重要なので、農薬を使わない方向で考えてもらえたら安心がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・無農薬についても検討していきたい。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・精神発達の問題が増えているのは、残留農薬が精神的なところに作用するというのが言われている。日本全体がオーガニックに向かっている。まず特支のところからやる。直結していることに対して、各務原は全面的に向き合うということで、他の小中学校に対してもメッセージになる。お子さんのことで悩まれている方にも新しい視点を届けることになる。育て方が悪かったのではないかと悩まれている方も多いので、もう一度食品から見直し、特支では全く農薬を使わないということをアピールされると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・無農薬、農薬を使わないということは次のソフト面で検討していく。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生徒のあり方について、毎年 30 数名の方が卒業されると思うが、市内に大学が二つあるので、そこを目指した場合に受け入れられるか。また、就職する場合に、企業も障がい者を何%かを雇用する義務があると思うが、それだけで

	<p>は就職先に困ると思うので、市として条例なりで企業に受け入れてもらえるように斡旋するような仕組みができると良いと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後については、保護者にとって非常に重要であり、さらに教養を深めたい方は大学に進学ということもある。市内にある二つの大学は市の行政に協力的であるため、希望された場合には通えるように積極的に協議していきたい。市内には大企業が多く、県内でも屈指の働く場が多い市であるため、就労する場でどのようなことが求められるのか、作業学習等の段階から企業と連携し、そのようなカリキュラムが組めるように検討していく。
L	<ul style="list-style-type: none"> そもそものところを教えてほしい。どうして新しくつくりたいいけないのか。市外にどれくらい通っているのか。その中で市内にどれくらい通いたい希望があるのか。 推計された結果について、少子化で児童生徒が減っていく中で220名前後が維持されているが、どのように推計したのか。 少子化の中で学校の統廃合が進んでいくと思うが、それを活用するということは考えなかったか。地元になるため、できるとなれば地元としては歓迎したいと思うが、根拠が薄いと感ずる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校判定の方は、市内で210名みえる。市外の特別支援学校に通学している方が、小学生が43名、中学生が38名、高校生が52名、市内の高等部に49名、地元の小中学校の特別支援学級に判定とは合わないが通っている方が28名いる。半数以上の方が市外で学ばれている。以前から市内で学ばせてほしい、知的障がいだけでなく肢体不自由や病弱の方も市内で学ばせてほしいという要望をいただいていた。岐阜県に対して要望してきたが、県の方では市内につくるということは難しいということで、市でつくることになった。 児童生徒数の推計については、少し複雑になるが、考え方としては各務原市の将来人口推計があり、それに対して過去5年間の在籍率の伸びを考慮して、今後も続くと想定して将来推計人口に掛けて算出した。 市内には小学校は17校、中学校は8校、合わせて25校ある。これらが将来的に統廃合を踏まえた考え方があるのではないかとということで、各務原市教育委員会では学校規模適正化計画ということで公表しているが、地域にある小中学校は、地域のコミュニティの要であるため、守り抜いていくということにしている。そういった中で、統廃合を想定して特別支援学校を考えるということにはできない。当然、この考え方が永遠に続くということではなく、事象は変化するため、将来的に改めて考え直すということはある。
L	<ul style="list-style-type: none"> 推計でもう一度確認したいが、全体で児童生徒数はどれくらいいて、30年後にどれくらいになるか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 将来の児童生徒数については手元に資料が無いので、後ほど確認してお知らせし

	たい。
L	・在籍率がずっと増えていくという点について、根拠はあるのか。
事務局	・在籍率が増えていくのか減っていくのかは、過去の推移から推し量るしかないと考え、実績を基に推計を行っている。